2014.12.05　冨松

**仮想サムネイル画像の作り方**

拡大画像を仮想的にサムネイル画像に利用す場合の、メインページの作成方法について考えてみます。右図の2014南支部社会見学会のページ「s141123.html」を例に、仮想サムネイル画像の作成手順をまとめてみました。

この仮想サムネイル画像は、HPBの「HTMLソース」タブなどのテキストエディタを使うことで、効率的にページを作成することができます。このエディタによる方法は、本文・画像・拡大画像ページなどの準備とは独立して作業を進めることができるのが大きな特長です。

**＜雛形からページを作る＞**

CSSに a img { widh:200px; height:150px; } があり、右図を雛形として利用し、かつ画像の数や配列も変えないと仮定します。まず、s141123.htmlを「名前を付けて保存」の操作で、ファイル名s150101.htmlとして **同じフォルダに保存** します。

このs150101.htmlを「HTMLソース」タブで、画像のある
一番上のセルを見ると、次のようになっています。

<td><a href="s14112301.html"><img src="s14112301.jpg" alt="画像"></a><br>○○</td>

ここで、全てのファイルのフォルダ名部分「s141123」を、新フォルダ名「s150101」に変更すれば、画像ファイル名はs15010101.jpg、s15010102.jpg・・・、リンク先の拡大画像ページはs15010101.html、s15010102.html・・・と変わることになります。

この変更処理は「HTMLソース」タブの「**置換**」機能を使うと便利です。ソースで「s141123」を選択 ～「編集」～「置換」で、「置換する文字列」が
入力された右図が現れます。ここで
「置換後の文字列」に「s150101」と入力し、「すべて置換」ボタンを押すだけです。

この置換操作は、全てのサムネイル画像の挿入と拡大画像ページへのリンクの指定を同時にしたことになります。**新しいフォルダs150101を作り**、**半完成のs150101.htmlをここに移動** します。画像をフォルダs150101に置いた時点で、メインページにはリンクが貼られたサムネイル画像が表示されます。

以降の操作は「ページ編集」タブを使うのが便利です。ここでタイトルの変更、画像の説明文の入力、標題および本文の変更をすれば、新しいメインページの完成です。

**＜白紙からページを作る＞**

前ページ2014南支部社会見学会「s141123.html」のページを、白紙から作ってみることにします。

**１．前準備**

多くの人が撮った写真の全てを、「館外」「館内開演前」「中村さん熱演」「閉演後」「関連風景」のように、時系列のフォルダに分類します。各フォルダ内の写真は必要であろう枚数だけ残し他は削除します。
トータルで20～30枚ぐらいが目安です。文章はWordで整理し、その量と内容を確認しておきます。

**２．ページレイアウトの基本設計**

全体レイアウトの基本設計は、前ページ「s141123.html」の配置を頭に想定して、A4で1枚の用紙に鉛筆で作図します。画像の配置と枚数は、ここでキチンと決めましょう。この設計は特に大切です！

**３．実際のページ作成**

・ページ内容は簡単ですから、白紙から作っても難しくありません。右上図のような定型ソース部分は、「HTMLソース」タブで他からコピペします。

<!DOCTYPE html>

<html lang="ja">

<head>

<meta charset="utf-8">

<title>2014社会見学会</title>

<link href="../hira-m.css" rel="stylesheet">

<style>

<!--

body{background: #CCFFCC url(../image/g.gif);}

a img{width: 200px; height: 150px;}

-->

</style>

</head>

<body>

<!--トップメニュー-->

<div id="upper\_navi\_g">

 <iframe src="../../navi\_menu.html"・・</iframe>

</div>

<!--ページ本体-->

<div id="container">

・全ページ幅 は「#container」（850px）をそのまま利用するか、右中図のような「#area」で任意の幅に指定することもできます。

・以降のレイアウトは、基本的にtableを使います。画像を入れるtable は、セル1つを作りコピペで増やすか、最初から画像と同数のセルを作ります。

・次にサムネイル画像の挿入と拡大画像ページへのリンクの処理をします。画像を置く一番上のセルに、右下図のようなデータを他からコピペします。ここでファイルのフォルダ名部分「n141118」を「s141123」に修正し、さらにこれを残りのセル全てにコピペします。

#area{

 width: 830px; /\* 任意の幅に設定可 \*/

 margin: 0 auto;

 text-align: left;

}

・この時点で全てのファイルのドット「. 」より左部分は、「s14112301」となっています。ここで全てのファイル名の連番部分を、順次01,02, 03・・・と手動で修正していきます。

**４．画像のリサイズとリネイム**

<td><a href="n14111801.html"><img src="n14111801.jpg" alt="画像"></a><br>○○</td>

画像の枚数・配置場所・順序を正式に決めて、ファイル名の頭に「配置順序の仮NO.」を付けます。「縮専」などの画像縮小ソフトで拡大画像寸法にリサイズし、「FlexibleRenamer」などのファイル名変更ソフトで 連番にリネイムします。

完成した画像をフォルダに置けば、メインページにはリンクが貼られたサムネイル画像が表示されます。

**５．最終調整**

「ページ編集」タブで、文章をテキスト形式にして流し込み、タイトル、標題、画像の説明文などを
入力します。必要があれば「Trial and Error」で修正を繰り返します。

**＜特殊な画像寸法がある場合の処理＞**

１．縦のサムネイル画像が点在する場合

縦のサムネイル画像があるときは、次のような指定がわかりやすい。（tnはthumb nailの略）

CSS：img.tnh { width:150px; height:200px; } → タグ：<img src="s14112310.jpg" class="tnh">

２．2系統のサムネイル画像がある場合

集合写真などのサムネイル画像は、大きくして見やすくしたい場合があります。このように同じページに2系統のサムネイル画像を置く場合は、大きいサムネイル画像に次のような指定をします。

CSS：img.tnl { width:400px; height:300px; } → タグ：<img src="s14112311.jpg" class="tnl">

**＜インデントの心がけ＞**

HPBの「HTMLソース」タブでhtmlソースを作る場合は、終了タグと次の開始タグの間に「半角スペース」「Tab」「Enter」を挿入して、ページの制御構造が判るようにインデント（字下げ：indentation）を心がけてください。htmlソースの作成は簡易なプログラミングですから、適切にインデントされたソースでは、その制御構造を直感的に、素早く認識することができます。

htmlの文法では、この「半角スペース」「Tab」「Enter」はいくつあっても、あるいはなくても構いません。極端な話をすると、この「s141123.html」のソースのタグ間にある、それらをすべて削除してみてください。あるいは、逆にタグ間にでたらめに挿入してみてください。ソースの判読は極端に難しくなってしまいますが、文法的には正しいページなのです。

**（注）**終了タグと次の開始タグの間に、インデントの目的で「全角スペース」は入れないでください。
文法ミスですから、正常に機能しない場合があります。

HPBを使い慣れた人が特に注意すべき点があります。「ページ編集」タブを使ってページを作るときは、HPBに仕組みとして「HTMLソース」タブにある程度インデントしたソースを自動的に吐き出します。ところが、「HTMLソース」タブ・TeraPad・メモ帳などのテキストエディタは、もともと汎用的なテキストの編集を目的にしているので、自動的にインデントする機能はありません。

このエディタを使う場合は、ページの制御構造が判るようなインデントをページ設計者が自分でするしかありません。常に適切なインデントを心掛ける必要性はここにもあります。htmlソースのインデントは、見た目だけの意味しか持ちませんが、人間にとってはこの見た目が大切なのです。

以上